

**ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム**  
**(ゲノム医療実現推進プラットフォーム・ゲノム研究プラットフォーム利活用システム)**  
**令和6年度中間評価 評価コメント**

No.	評価課題名	補助事業 代表者名	所属機関	役職
000-001	ゲノム医療実現推進のためのバイオバンク・ネットワーク構築とバイオバンク利活用促進に関する研究開発	荻島 創一	東北大学	教授

**【評価コメント】**

本研究は、国内のバイオバンクが連携した世界でも最大規模のバイオバンク・ネットワークを構築し、横断的な試料・情報の利活用を促進している。

窓口の一本化、利用申請手続きの改善、臨床情報の拡充、倫理審査の軽減、利活用ハンドブックの充実化など、利用者のニーズ把握につとめながら進められており、広報活動の充実を通じた利活用の促進活動にも取り組んでいる。また、国際連携について、BBMRI-ERIC と共同で国際標準の規格を新たに提案したことは、高く評価されるべき成果である。このように第1期に比べると、概念的に充実してきていることは評価できる。

基盤整備は、その基盤の上にシーズの研究開発が具体化することが重要である。本検討により個別のバイオバンクの成果がさらに横展開して利活用され、ゲノム医療推進などにつながることも期待したい。一方、本研究課題によって構築されたシステムやサービス（横断検索システムや利活用ハンドブック等）が利活用され成果につながった事例、具体的には「ゲノム医療推進」という視点での実用的な成果（診断法、治療法、創薬における成果の中で活用されたなど）が見えるように進めていただきたい。

また、喫緊の課題としてあげられていた、若手研究者のキャリアパス支援に関しては今後もさらなる取り組みを期待する。